

新たな国民と内閣との対話に関する 国会における主な発言

平成 18 年 12 月

(1) 11 月 22 日 (水) 参・教育基本法に関する特別委員会 対 蓮舫議員 (民主)

「当然、官房長官としては、その所掌する事柄について責任を持っているという考え方の下に事柄に当たっているわけでありまして、基本的にその考え方の下にこの問題について徹底して更に調査をして事実を解明をしていく、そしてそのことを国民の皆様にも明らかにしていく、そしてそういうことが二度と起こらないようなタウンミーティングとして国民との双方向の対話の場として再スタートを切っていくということを行うことによって責任を果たしていきたいと思っております。」

(2) 11 月 24 日 (金) 参・本会議 (17 年度決算) 対 羽田雄一郎議員 (民主)

「タウンミーティングにおいて、発言案をあらかじめ特定の者に送付するなど国民の信頼を損なうような運営が一部にあったことは大変残念なことであります。しかしながら、本来タウンミーティングは国民と政府が双方向で対話する貴重かつ有意義な機会であると考えております。何としてもタウンミーティングに対する国民の信頼感を回復し、これを再開することが私の責務であると考えています。私としては、この問題について徹底して調査をすることで事実を解明し、国民にも明らかにしてまいります。そして、こういうことが二度と起こらないようなタウンミーティングとして再スタートを切っていくことによって責任を果たしていきたいと考えております。」

(3) 11 月 30 日 (木) 参・教育基本法に関する特別委員会 対 藤本祐司議員 (民主)

「このタウンミーティングの問題については様々な御指摘がなされているわけでございます。この御指摘にのっとって我々もこの問題の調査をしなければならぬ。林副大臣の下に調査委員会を立ち上げたわけでありまして、この調査を行い、そしてそれを国民の皆様の前に明らかにすることによって我々は責任を果たしていきたいと、このように思っているわけでありまして、またこの経費の中身の詳細等につきましても、当然これは透明性をしっかりと確保したものにしなければならぬと、そのように指示をいたしている次第であります。

それを我々、今後のこうした、万が一にも無駄遣いとなることのないようにタウンミーティングに生かしていかなければならぬと考えております。」

(4) 11 月 30 日 (木) 参・教育基本法に関する特別委員会 対 福山哲郎議員 (民主)

「まず、この教育基本法については、中教審においても長い間議論がなされました。いろいろな関係の団体からの意見の聴取も行っていきます。また、もちろんこれは与党のことではありますが、与党内において相当な議論が行われてきたのも事実であって、そしてこの国会において、衆議院において百時間を超える議論がなされているわけでありまして、そういう意味では国民的な議論が私はなされていると、こう思います。

その例としてタウンミーティングの例を挙げたと、こういうことでございますが、しかし、そのタウンミーティングにおいてあらかじめ質問を依頼をしたりという問題があったことは、大変これは遺憾なことであり、そのために、現在、すべてのタウンミーティングについて調査を行っているわけでありまして。

また、動員等について言えば、例えば、出席者が少なければ、それはもう出席者が少ないというのがその事柄についての国民の関心の度合いというふうにはこれは受け止めなければならないわけであって、あえて私は、当然、動員等はする必要はないのであろうと、このように思うわけでありまして、恐らく、これは役所側の方として、何とかこれは、せっかくやるからには人は埋めておこうと、こういうことであつたのだらうと、このように思います。

また、他方、言論の封殺というのは、そこまでは私はないと、このように思いますし、かなりの議論がなされたタウンミーティングもあります。出席者、大臣と相当の激しい議論がなされたタウンミーティングもございますよ、これは、幾つかのタウンミーティングにおいては。

ですから、そういう意味で、すべて全くこれは出来レースであつたということではなくて、例えば、活発な議論をしてもらおう、あるいはこういう事柄については特別に関心を持って行って来た人たちには積極的な発言をしてもらおうと、そういう意図もあつたのかもしれないと、こう推察するところもあるわけでありまして、いづれにいたしましても、このタウンミーティングは、国民との双方向の、正に国民へのこれは説明、対話の重要な場である、窓口であるという立場から、私は、今までの問題点は問題点としてしっかりと事実関係を把握していく、そのためには調査を行い、そして国民の皆様にも明らかにし、本来の趣旨にのつたタウンミーティングとして再開をしていかなければならないと考えております。」

(5) 11 月 30 日 (木) 参・教育基本法に関する特別委員会 対 井上哲士議員 (共産)

「このタウンミーティングの問題につきましては、当委員会を始め、厳しい御指摘があります。確かに私も、あらかじめ質問内容を依頼する等々の問題、これはもちろん間違っている、大変遺憾に思うわけでありまして、その意味におきまして、この教育に関するタウンミーティングも含めまして、すべてのタウンミーティングについて今徹底的に事実を究明をしているところでございます。

その上において、もちろん国民の皆様にもこの結果をお示しをして、タウンミーティング本来の目的でございます、国民とお互いに双方向の対話を行うことによって政策についての理解を深めていく、議論を深めていく、このタウンミーティングを、本来の目的であるタウンミーティングを私は再スタートしたい、こう考えているわけでございます。」

(6) 11 月 30 日 (木) 参・教育基本法に関する特別委員会 対 近藤正道議員 (民主)

「当然、大臣としては、その所掌、所管の中で起こる様々なことについては最終的な責任を持っているという覚悟で仕事に常に臨まなければならないわけでございます。私も当然この問題について責任を果たさなければならない、感じているわけでありまして、その意味においては、この問題についてまずは徹底的に事実関係をこれは明らかにしていく、国民の前に明らかにして、そしてこのタウンミーティングに対する国民の信頼がなければタウンミーティングは機能しないわけでありまして、タウンミーティングとして機能するように再構築をして再スタートさせていかなければならないと考えているわけでありまして、また先ほど来の議論にあるように、掛かっていた諸経費の問題についてやはり節約すべきものは節約をしていかなければいけない。そうしたことを踏まえてタウンミーティングを再構築させていくことによって責任を果たしてまいりたいと考えております。」

(7) 12 月 4 日 (月) 参・決算委員会 対 柳澤光美議員 (民主)

「無駄遣いは厳に慎まなければならないわけでありまして、タウンミーティングの本来の趣旨は、国民との対話であり、双方向での対話であり、我々が進めようとする政策について御説明する大切な場でありまして、しかしそれと同時に、当然それに伴う支出については無駄遣いがあるはならないわけでありまして、豪華である必要も全くないわけでございます。

そういう観点から、ただいま林副大臣の下で行っている調査において出てきた結果を見ながら、こうした無駄遣いが絶対にこれは起こらない、そういう仕組みにおいて再びまた国民との対話を始めたいと思うわけでありまして、今までのこの支出については徹底的にうみを出すという考え方の下に調査をしてまいります。そのことによって私も責任を果たしてまいりたいと考えております。」

(8) 12 月 13 日 (水) 衆・教育基本法に関する特別委員会 対 中井洽議員 (民主)

「本来、このタウンミーティングは、国民との対話の場であり、私どもが遂行しようとする政策について、国民に率直に私どもが説明をし、また国民の皆様の御意見を承る、双方向での意見交換の重要な場、このように考えてまいりました。しかしながら、このタウンミーティングにおきまして、あらかじめ質問の内容を指定していたこと、あるいはまた、公募という形ではなくて参加を依頼したケースがあったこと、そしてまた、謝礼金を払ったというケースがあったこと、そしてまた、ただいま中井さんが御指摘になられましたように、運営費について無駄遣いがあったこと等々の問題があったことは、大変遺憾に思うところでございます。」

(9) 12 月 13 日 (水) 衆・教育基本法に関する特別委員会 対 保坂展人議員 (社民)

「あらかじめ質問を依頼する等の問題が出てまいりました。また、運営費のあり方についてもいろいろと御指摘の点もございましたので、そうした御指摘を踏まえて調査し、先ほど発表した、資料についてお配りした、そして 12 時半から林副大臣が正式に発表をするわけでありますが、こうした問題、すべて出すべきうみは出しながら、しかし、本来、このタウンミーティングは国民と双方向の大切な対話の場であったわけでございますので、そうした趣旨にのっとった対話の場をゼロからスタートさせていきたいと考えております。」

(10) 12 月 14 日 (木) 参・教育基本法に関する特別委員会 対 神本美恵子議員 (民主)

「そして、総理といたしましては、このタウンミーティング本来の趣旨であります国民との双方向との対話を実現し、そして私どもの政策を説明し、また国民の皆様生の声をお伺いする場として、是非タウンミーティングをゼロからスタートさせていかなければならない。そしてまた、運営方法についてもいろいろと御議論がございました。その御議論の中において無駄遣いがあるではないかという指摘もありました。確かに私もそのとおりであろうと、こう考えておりますので、今後、華美にならないように、質素ではあっても中身のあるタウンミーティングを開催をしていくために運営を改善をしていきたいと考えております。」

(11) 12 月 14 日 (木) 参・教育基本法に関する特別委員会 対 井上哲士議員 (共産)

「タウンミーティングの問題についてはタウンミーティングの問題として、昨日、調査結果を発表させていただきました。そして、責任者の処分を行うと、けじめを付けるということもはっきりと申し上げているわけでございます。こうしたことが行われたことは極めて遺憾でありますし、また言わば事なかれ主義の上にこうした出来事が起こったのではないかと、このように思います。そういう精神を基本的に変えていかなければならないと思います。そしてまた、このタウンミーティングについては、国民との大切な対話の場として再びゼロからスタートさせていきたいと考えているところでございます。」